

WHO-FIC ネットワーク年次会議（2015）の報告

主催	WHO、Health & Social Care Information Center, UK
開催期間	平成 27（2015）年 10 月 17 日（土）～23 日（金）
会場	マンチェスター（英国）、パレスホテル
参加者	WHO、各 WHO 国際統計分類協力センター、各国政府厚生・統計関係部局、NGO、オブザーバー等

【主な議論】

1. ICD-11 改訂スケジュール等

- 2018 年 5 月の世界保健総会（WHA）での勧告を目ざす。2016 年 5 月の WHA に勧告骨子を報告。レビュー等に使用する ICD-11 ベータ版の凍結版は、2016 年 4 月を目途に準備中。
- フィールド・トライアル（FT : Field Trial）は、入力用プラットフォーム（ICD-FIT）を作成中。実施内容は、3 種類の基本調査（基礎的な質問、ブリッジコーディング、信頼性評価）を予定し、FT で使用する様式の各国語への翻訳、学習ツール等の準備中。
- JLMMS（死亡・疾病統計リニアライゼーション）タスクフォースを中心とした改訂会議組織の活動が整理された。

2. 各委員会等における議論

- カウンシル（Council）では、共同議長の Lars Berg 氏（スウェーデン）が退任し、Jenny Hargreaves 氏（豪）が留任、Lynn Bracewell 氏（英）が議長となった。
- 教育普及委員会（EIC : Education and Implementation Committee）では、ICD・ICF 普及データベースの更新を行うと共に新たに 17 カ国がデータ入力を行った。また、ICD・ICF 教育者データベースの検討、ICD-11 フィールド・トライアル用教材作成の検討を行った。
- 情報科学用語委員会（ITC : Informatics and Terminology Committee）では、東北大学の中谷純氏が事務局として指名された。
- 国際分類ファミリー拡張委員会（FDC : Family Development Committee）では、Risk factor の分類、Primary care の分類、Casemix の分類、医療行為の分類（ICHI）について検討を行っている。
- 死因分類グループ（MRG : Mortality Reference Group）では、心不全、血液疾患と新生物の関係など個別の疾患に関する因果関係の検討を行った。

- 生活機能分類グループ（FDRG：Functioning and Disability Reference Group）では、ICF practical manual がダウンロード可能となったとの報告があった。今回新たに日本協力センターに参画した国立障害者リハビリテーションセンターの井上剛伸氏より ISO9999 に関するプレゼンテーションを行った。

※改正改訂委員会（URC：Update and Revision Committee）の議論は、資料 1-3 参照

3. その他

- WHO-FIC の担当部署、Department of Health Statistics and Information Systems (HIS)が、Department of Knowledge, Management, Ethics and Research と合併し、Department of Information, Evidence and Research (IER)となった。
- 担当官であった、Bedirhan Üstün 氏が HIS から異動し、Data Revolution and Big Data を担当することになり、HIS の後任が決まるまでは IER の部長の Ties Boerma 氏が兼任する。
- 本年初めて、WHO-FIC ネットワーク会議と同時並行で DAR（Disability and Rehabilitation）ネットワーク会議が開催された。

4. 今後の会議日程

- 2016 年は日本で ICD-11 改訂会議と同時に開催。2017 年はメキシコで開催の予定。